

計算とは何か (1930年頃)

計算の論理学

Jacques Garrigue
 名古屋大学多元数理科学研究科
<http://www.math.nagoya-u.ac.jp/~garrigue/>

人間が規則に基づいて進める作業

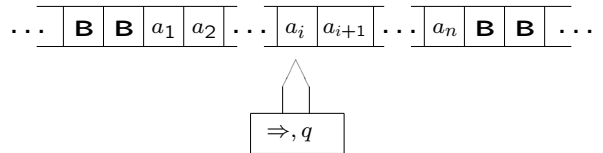
- 規則の適用は頭の中で行う
- 一度に確実に頭に収まるデータの量は有限
- 補助記憶としてノートと鉛筆を使う
- 1ページに書く分量は有限
- ノートの枚数を無限としてもよい

Alan Turingが考えた機械

少し単純化すると、以下のような機械で人間のできる計算が全てできるはず

- ノートの代わりに両端が無限なテープを使う
 - テープは記号が一つだけ書いてある四角の列からできている
 - テープに書ける記号の種類は有限である
- 「頭」はテープのある四角を見て、以下の動作を行う
 - 自分の状態と目の前の記号を元に動作を決定的に決める
 - 同じ位置に新しい記号を書く
 - 右か左に1四角分移動する

チューリング機械



チューリング機械の形式的な定義

定義 1 チューリング機械は次の5つ組によって定義される。

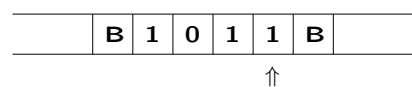
$$M = (K, \Sigma, \delta, q_0, H)$$

- K : 空でない有限集合。 K の要素を状態という。
- Σ : 空でない有限集合(アルファベット)。 Σ の元を記号という。 Σ は空白記号Bを含む。
- q_0 : K の要素で、初期状態という。
- H : K の部分集合で、その要素を停止状態という。
- δ : $(K \setminus H) \times \Sigma \rightarrow \Sigma \times \{\text{左}, \text{右}\} \times K$ なる遷移関数。

1を足すチューリング機械

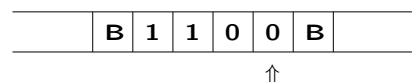
2進数で表現された数字に1を足す機械

初期状態は下記の通り $1011^2 = 2^3 + 2^1 + 2^0 = 11$



終了時はこうなる

$$1100^2 = 12$$



1を足すチューリング機械の定義

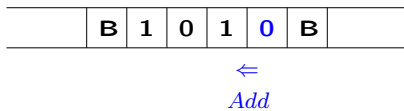
$$\Sigma = \{B, 0, 1\}$$

$$K = \{Add, Right, Halt\}, \quad q_0 = Add, \quad F = \{Halt\}$$

$q \backslash a$	0	1	B
Add	(1, 右, Right)	(0, 左, Add)	(1, 右, Right)
Right	(0, 右, Right)	(1, 右, Right)	(B, 左, Halt)

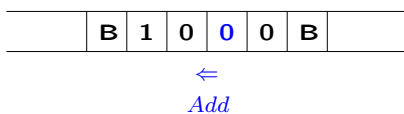
- 1のときはそれを0に変えて繰り返し上がり
- 0が見つかるまで左に移動しながら繰り返す
- 見つかったら、1に変えて右に戻る

1を足すチューリング機械の動き



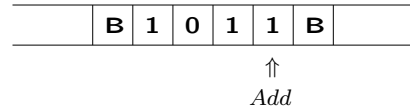
$q \backslash a$	0	1	B
Add	(1, 右, Right)	(0, 左, Add)	(1, 右, Right)
Right	(0, 右, Right)	(1, 右, Right)	(B, 左, Halt)

1を足すチューリング機械の動き



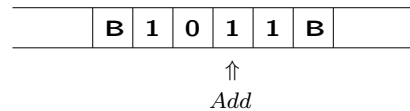
$q \backslash a$	0	1	B
Add	(1, 右, Right)	(0, 左, Add)	(1, 右, Right)
Right	(0, 右, Right)	(1, 右, Right)	(B, 左, Halt)

1を足すチューリング機械の動き



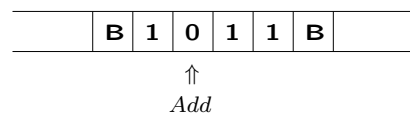
$q \backslash a$	0	1	B
Add	(1, 右, Right)	(0, 左, Add)	(1, 右, Right)
Right	(0, 右, Right)	(1, 右, Right)	(B, 左, Halt)

1を足すチューリング機械の動き



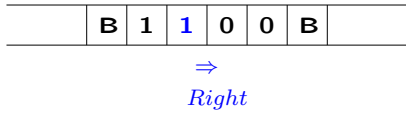
$q \backslash a$	0	1	B
Add	(1, 右, Right)	(0, 左, Add)	(1, 右, Right)
Right	(0, 右, Right)	(1, 右, Right)	(B, 左, Halt)

1を足すチューリング機械の動き



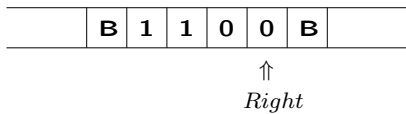
$q \backslash a$	0	1	B
Add	(1, 右, Right)	(0, 左, Add)	(1, 右, Right)
Right	(0, 右, Right)	(1, 右, Right)	(B, 左, Halt)

1を足すチューリング機械の動き



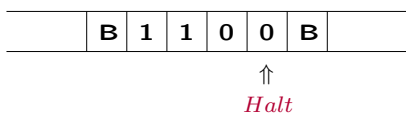
$$\delta = \begin{array}{c|ccc} q \backslash a & 0 & 1 & B \\ \hline Add & (1, \text{右}, Right) & (0, \text{左}, Add) & (1, \text{右}, Right) \\ \hline Right & (0, \text{右}, Right) & (1, \text{右}, Right) & (B, \text{左}, Halt) \end{array}$$

1を足すチューリング機械の動き



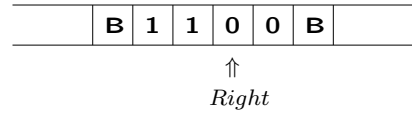
$$\delta = \begin{array}{c|ccc} q \backslash a & 0 & 1 & B \\ \hline Add & (1, \text{右}, Right) & (0, \text{左}, Add) & (1, \text{右}, Right) \\ \hline Right & (0, \text{右}, Right) & (1, \text{右}, Right) & (B, \text{左}, Halt) \end{array}$$

1を足すチューリング機械の動き



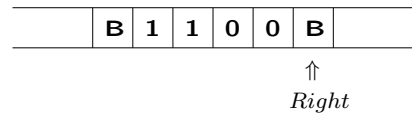
$$\delta = \begin{array}{c|ccc} q \backslash a & 0 & 1 & B \\ \hline Add & (1, \text{右}, Right) & (0, \text{左}, Add) & (1, \text{右}, Right) \\ \hline Right & (0, \text{右}, Right) & (1, \text{右}, Right) & (B, \text{左}, Halt) \end{array}$$

1を足すチューリング機械の動き



$$\delta = \begin{array}{c|ccc} q \backslash a & 0 & 1 & B \\ \hline Add & (1, \text{右}, Right) & (0, \text{左}, Add) & (1, \text{右}, Right) \\ \hline Right & (0, \text{右}, Right) & (1, \text{右}, Right) & (B, \text{左}, Halt) \end{array}$$

1を足すチューリング機械の動き

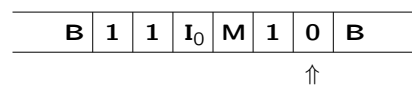


$$\delta = \begin{array}{c|ccc} q \backslash a & 0 & 1 & B \\ \hline Add & (1, \text{右}, Right) & (0, \text{左}, Add) & (1, \text{右}, Right) \\ \hline Right & (0, \text{右}, Right) & (1, \text{右}, Right) & (B, \text{左}, Halt) \end{array}$$

足し算を行う機械

2進数で表現された二つの数字を足す

初期状態は下記の通り



終了時はこうなる

